

※この学習指導案の形式は、令和6年度の形式であり、令和7年度の学習指導案作成の形式については、「令和7年度研修の手引き」を参考にする。

小学部第*学年 算数科学習指導案

日時	令和6年*月*日(*) 9:30~10:15		場所	小学部*年*組教室
指導者	川崎 百音(T1)、** ***(T2)			
単元名	「長さ比べをしよう」			
本単元の目標	・身の回りにあるものの長さを単位として、その幾つ分かで長さを比較することができる。 (知識及び技能)〈小学部3段階〉 ・身の回りのものの長さについて、その単位に着目して長短を比較したり、表現したりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等)〈小学部3段階〉 ・長さの違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)〈小学部3段階〉			
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・身の回りにあるものの長さを単位として、その幾つ分かで長さを比較している。	・身の回りのものの長さについて、その単位に着目して長短を比較したり、表現したりしている。	・長さの違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとしている。	
単元設定の理由	本グループは、男子4名、女子1名の計5名で構成されている。算数の学習に興味を示し、未習の課題にも意欲的な様子が見られ、特に、ゲーム的活動や具体物を使った学習に対して主体的に取り組むことができる。しかし、苦手な活動やゲームの勝敗によっては、集中を保つことや気持ちの安定を保って取り組むことが難しいときもあるが適宜言葉かけを行ったり、興味・関心を引く教材教具を提示したりすることで、学習に取り組むことができる。算数科の実態としては、全員が2つ以上の具体物を見て「長い」「短い」の用語を用いて表現することができる。また、2つのものの長さを比べる際は、一方の端を揃えて比べることを理解している児童が2名、言葉かけや手本により理解できる児童が3名である。しかし、目盛り方眼のます目を読み取って、ものの長さを数量化して表すことや比べる具体物が2つ以上の場合は、長さを比較することが難しい。 本単元では、特別支援学校小学部学習指導要領解説に示された第3段階 C「測定」のA「身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技能を身に付けようとする。」、イ「身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係表現したりする力を養う。」に基づき、目標を設定する。また、内容については、C(ア)㉞「長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。」、(ア)㉟「身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。」、(イ)㉞「身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。」を取り上げる。そこで本単元では、長さの比べ方に必要な基礎を培うとともに、実際のものの長さを直接比較や間接比較、任意単位によって測定したり比較したりする体験的な活動を充実させていきたいと考える。 指導にあたっては、具体物を操作し、身近なものの測定と比較を繰り返す行うことで学習の定着を図りたい。単元の導入時には、モールやストローを用いて2つのものを正確に比べる場面を設定する。具体物の操作を通して、長さの比べ方に必要な「端をそろえる」や「まっすぐにする」ことなどに気付き直接比較ができるようにする。単元の中盤では、机の縦の長さや横の長さのように、直接比較することができないものを紙テープやタイルに置き換えて比べる活動を行うことで、間接比較や任意単位による比較ができるようにする。単元の終盤は、教室や学校内にある長い、短いものを探し、長さ比べをする活動を行い、場面に応じた長さの測定や比較方法を自ら設定する力を身に付けていく。本時は、目盛り方眼を用いて魚の長さを測定し、ます目の幾つ分で長さを比較できるようにする。さらに、任意単位による比較から数量化して表す活動を通して、「どちらが長い(短い)」だけではなく、「ます目の何個分長い(短い)」と数の大小で表すことのよさや共通のもので測定することの便利さに気付くことができるようにしていきたい。比較の対象物を色分けしたり、端がどこか分かる目印のシートを用意したりして、ます目に端を合わせて正確に魚の長さを測ることができるようにする。本単元の学習を通して、長さや測定に関する興味・関心を高めるとともに中学部第1段階、普遍単位による測定の学習に繋げていきたい。			

単元の指導計画 (8時間扱い) 本時は第7時	次	時	学習内容・活動	評価規準・評価方法
	1 「長さの比べ方を 知ろう」	1 「長い？ 短い？」	2量を比較し、「AはBよりも長い(短い)」という見方を知る。	長さの違いに気づき、「AはBよりも長い(短い)」という見方で表現している。 (思考・判断・表現) [発表・ワークシート]
		2 「端を そろえよう」	比較する対象物を並べ、まっすぐ伸ばして比べる必要があることを知る。	端をそろえて長さを比べることが分かり、具体物を操作して、長さを比べている。 (知識・技能) [観察・ワークシート]
		3 「まっすぐにしては かろう」	比較する対象物を並べ、まっすぐ伸ばして比べる必要があることを知る。	まっすぐに伸ばして長さを比べることが分かり、紙やモールなどの対象物を伸ばして、長さを比べている。 (知識・技能) [観察・ワークシート]
	2 「身の回りのものを 比べよう」	4 「ものどものを 合わせて 比べよう」	身の回りにあるものの長さに関心を持ち、直接比較の方法で比べる。	長短差の小さいものについて、端をそろえたり、横に並べたりして、長さ比べをしたり、「出っ張っている。」「足りない。」等の言葉を添えて表している。 (知識・技能) [発表・ワークシート]
		5 「教室にある ものを比べよう」	直接比べることができない長さを紙テープに置き換えて比較する。	比べたい長さを紙テープに写し取って2量を比べたり、基準とする長さをういて2量を比べたりしている。 (思考・判断・表現) [発表・ワークシート]
		6 「長さを数で 表そう」	任意の長さを単位として、その幾つ分か数値に置き換えて長さの比較をする。	任意の長さを単位として、長さを数で表している。 (知識・技能) [観察・発表]
		7 「ます目の 何個分で長さを 比べよう」 (本時)	目盛り方眼を用いて、魚の長さを数値化して比べる。	目盛り方眼を用いて魚の長さを測り、ます目の幾つ分かて長さを比較している。 (知識・技能) [観察・発表]
		8 「いろいろな ものの長さを 比べよう」	教室や学校の中にある長い、短いものを探し、長さ比べをする。	様々なものに興味を持ち、進んで「長い」「短い」を比べようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) [観察・ワークシート]

〔本時の指導〕

Ⅰ 本時の目標

「目盛り方眼を用いて魚の長さを測り、ます目の幾つ分かて長さを比較することができる。」

【知識及び技能】

2 児童の実態及び個別目標

児童	児童の実態	個別目標	自立活動の目標
A	・2つ以上の具体物を「長い」「短い」の用語を用いて表すことができる。 ・具体物を端から測ることを理解し、端をそろえて測定することができる。 ・焦る気持ちが強く、比べる具体物が2つ以上の場合、目盛り方眼のます目を読み取らないことがある。	目盛り方眼のます目の幾つ分かで長さを比較し、長短を答えることができる。 (知識及び技能)	嫌なことややりたくないことがあったときに、どうすればよいか考えることができる。
B	・2つ以上の具体物を「長い」「短い」の用語を用いて表すことができる。 ・指差しや手本を見て、端をそろえて測定することができる。 ・目盛り方眼のます目を読み取らず、見た目の感覚で長さを比べることがある。	目盛り方眼のます目を正しく数え、多い方を「長い」、少ない方を「短い」と答えることができる。 (知識及び技能)	友達や教師と話し合いができる。
C	・2つの具体物を「長い」「短い」の用語を用いて表すことができる。 ・目印となる線や手本を見て、具体物の端をそろえて測定することができる。 ・目盛り方眼のます目を読み取ることや読み取ることで長さを比べることができると理解が難しい。	目盛り方眼のます目の数が多い方を「長い」と答えることができる。 (知識及び技能)	友達や教師に言葉で要求を伝えたり、問いかけに答えたりすることができる。
D	・2つ以上の具体物を「長い」「短い」の用語を用いて表すことができる。 ・具体物の形を見て端から測ることに自ら気付き、端をそろえて測定することができる。 ・焦る気持ちが強く、目盛り方眼のます目を読み取らず、見た目の感覚で長さを比べることがある。	目盛り方眼のます目を正しく数え、ます目の幾つ分かで長さを比較し、長短を答えることができる。 (知識及び技能)	活動を通して、自分ができることや苦手なことを知ることができる。
E	・2つ以上の具体物を「長い」「短い」の用語を用いて表すことができる。 ・指差しや「ぴったり」などの言葉かけがあれば、端をそろえて測定することができる。 ・目盛り方眼のます目を読み取ることはできるが、長短差の小さいものについては読み取らずに長さ比べをすることがある。	目盛り方眼のます目の数を数え、ます目の数を比較し、長短を答えることができる。 (知識及び技能)	聞いたことを正しく伝えたり、質問に答えたりすることができる。

3 展開

※形態の表記は 全体:全、グループ:グ、個別:個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て(各Tの役割等)※評価は□で囲む
全 1	1 始まりの挨拶をする。	・授業の始まりを意識することができるよう、当番に注目して姿勢を正すことを伝える。
全 2	2 本時の目標と学習内容を知る。 目標 ますめのなんこぶんでながさをくらべよう。 学習内容 1 あいさつ 2 ぜんかいかくにな 3 魚つり 4 個別学習 5 ふりかえり 6 あいさつ	・見通しをもって学習に取り組むことができるよう、学習内容を確認する。
全 5	3 前時の学習を振り返る。 ・魚釣りに必要な道具の長さ比べを通して、既習の内容を振り返る。 [釣り竿] ・縞模様の釣り竿の、模様の数か ○個分であるかを答える。	・絵と言葉でまとめた既習の学びを提示し、本時の学習への繋がりがもつことできるよう促す。 ・魚釣りに必要な道具と既習の内容に繋がりをもちさせることで、学んだことを生かすことができる楽しさを実感し、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。 ・任意単位を使うことで、ものの長さを数値化して表せるという既習の内容を想起できるようにする。
全 25	4 魚釣りをする。 (1) 魚釣りをする。 ・5人一斉に魚釣りをする。 (2) (1)で釣った魚を机上に乗せて、長さを測る。	・長短差が少ない魚を用意し、見た目だけで長さを比べることの難しさに気付くとともに、目盛り方眼のます目を使うことの便利さに気付くきっかけを作ることができるようにする。 ・目盛り方眼のます目が等間隔であることを確認し、魚の長さはます目の数で表せることに気付くことができるようにする。 ・C児の注意がそれた時は、T2は題意を補足して説明したり、ます目を指さしたりすることで、魚の長さをます目の数で表わすことを理解できるようにする。 ・既習の学びを生かすことができるよう、ます目のどの線に魚を合わせて長さを測ったのかを問いかける。 ・B児やC児やE児がます目の端に魚を合わせ忘れてしまっている場合には、ます目の端に目印となるシートを置くことで、正しく魚を合わせることができるようにする。

グ	(3) 魚の長さを数字に書き表す。 ・配布する紙に、数字を書く。 (4) 魚と(3)で書き表したものを発表し、黒板に掲示する。 ・黒板に掲示された目盛り方眼に魚を掲示する。 ・(4)で書き表した紙を魚の隣に掲示する。 (5) 魚の長さを比べる。 ・友達の魚と長さを比べる。 【グループ】 ① A 児、D 児、E 児 … (T1) ② B 児、C 児 … (T2) ・長さ比べの結果を確認する。 (6) (5)をもとに、長い順番に魚を並べ替える。 ・ロイロノートを用いて並べ替える。(長さランキング表) ・並べ替えた魚の長さを全体で確認する。 (7) 学習のまとめをする。 ながさは、 ますめのかずで あらわすことができる。	・A児が直線以外の魚を釣った際は、T2が本時の目標を確認することを伝え、折れ曲がっていても、ます目の数を数えれば長さを測ることができるようにする。 ・D児が早く終わってしまった際には、「A児の魚のように、まっすくな魚ではない場合はどのように測りますか。」と問いかけ、直線以外の具体物についても考えることができるようにする。 ・B児やC児がます目の数をとばして数えたり数え間違いしたりしてしまう際には、数字が書かれた目盛り方眼を置くことで、ます目の数を正しく数えることができるようにする。 ・E児が、他のことに気をとられてしまい、活動を始められないときには、「測った魚の長さを紙に書くよ。」と言葉かけをし、学習への気持ちが向くようにする。 ・活動が早く終わった児童には、見直しをすることを伝え、自信をもって魚の長さを発表できるようにする。 ・魚を提示する際、本時の目標を意識できるよう、「魚は、ます目〇個分です。」というように発表方法を提示する。 ・B児やC児やE児が、発表方法が分からなくなってしまった場合には、発表カードを使うことで、自信をもって発表できるようにする。 ・魚の隣に書き表した数字を掲示することで、数字は何を表しているのかを理解できるようにする。 ・「〇がます目の〇個分長い」と意識できるよう、ワークシートに長さの比べ方の手順と〇個分長いのかを書き込むことができるようにする。 ・①グループは3つの魚を比べ、②グループは2つの魚を比べる場面を設定し、実態に応じて長さ比べができるようにする。 ・長さ比べの結果を全体で確認することで、他のグループの結果を知ることができるとともに、もっと多くの魚の長さ比べてみたいという意欲を引き出すことができるようにする。 ・長い(短い)順番に並べ替えるという操作を通して、本時の学習内容の定着を図る。 ・長さランキング表(順位)を用いることで2つ以上の具体物でも、長い順番に魚を並べ替えやすくする。 ・児童の解答をモニターに表示し、友達の解答と自分の解答を見比べることができるようにする。 ・まとめの場面では、教師が再度、目盛り方眼のます目に魚を置いた様子を見せることで、目盛りの数で魚の長さを数値化できることに気付けるようにする。
---	--	--

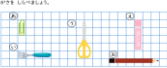
個
8

5 個別学習をする。
・ワークシート学習をする。

〔A〕

ハンバーガーセツグループ 名前 _____

★お好きなようにお楽しみください。



① 黄色いテープの長さは、赤いテープの長さと同じですか？

② はい、同じです。 ③ いいえ、赤いテープの方が長いです。 ④ いいえ、黄色いテープの方が長いです。

⑤ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑥ いいえ、赤いテープの方が長いです。

⑦ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑧ いいえ、赤いテープの方が長いです。

〔C〕

ハンバーガーセツグループ 名前 _____

★お好きなようにお楽しみください。



① 黄色いテープの長さは、赤いテープの長さと同じですか？

② はい、同じです。 ③ いいえ、赤いテープの方が長いです。 ④ いいえ、黄色いテープの方が長いです。

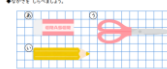
⑤ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑥ いいえ、赤いテープの方が長いです。

⑦ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑧ いいえ、赤いテープの方が長いです。

〔E〕

ハンバーガーセツグループ 名前 _____

★お好きなようにお楽しみください。



① はい、同じです。 ② いいえ、赤いテープの方が長いです。 ③ いいえ、黄色いテープの方が長いです。

④ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑤ いいえ、赤いテープの方が長いです。

⑥ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑦ いいえ、赤いテープの方が長いです。

〔B〕

ハンバーガーセツグループ 名前 _____

★お好きなようにお楽しみください。



① 黄色いテープの長さは、赤いテープの長さと同じですか？

② はい、同じです。 ③ いいえ、赤いテープの方が長いです。 ④ いいえ、黄色いテープの方が長いです。

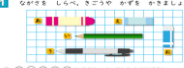
⑤ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑥ いいえ、赤いテープの方が長いです。

⑦ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑧ いいえ、赤いテープの方が長いです。

〔D〕

ハンバーガーセツグループ 名前 _____

★お好きなようにお楽しみください。



① 黄色いテープの長さは、赤いテープの長さと同じですか？

② はい、同じです。 ③ いいえ、赤いテープの方が長いです。 ④ いいえ、黄色いテープの方が長いです。

⑤ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑥ いいえ、赤いテープの方が長いです。

⑦ はい、黄色いテープの方が長いです。 ⑧ いいえ、赤いテープの方が長いです。

A:目盛り方眼のます目の幾つ分かで長さを比較し、長短を比較し、長短を答えている。

(知識・技能)〔観察・発表〕

B:目盛り方眼のます目を正しく数え、多い方を「長い」少ない方を「短い」と答えている。

(知識・技能)〔観察・発表〕

C:目盛り方眼のます目の数が多い方を「長い」と答えている。

(知識・技能)〔観察・発表〕

D:目盛り方眼のます目を正しく数え、ます目の幾つ分かで長さを比較し、長短を答えている。

(知識・技能)〔観察・発表〕

E:目盛り方眼のます目の数を数え、数を比較し、長短を答えている。

(知識・技能)〔観察・発表〕

目盛り方眼を用いて魚の長さを測り、ます目の幾つ分かで長さを比較している。

(知識・技能)〔観察・発表〕

- ・個別の目標に沿った問題を用意し、学習の定着を図る。
- ・直線以外の具体物を比べるワークシートを用意し、ます目の長さを単位として数を数えて、幾つ分かで長さが表せることに気付けるようにする。

全 3	6 本時の学習を振り返る。	・本時の目標を問い、板書やワークシートからどんな活動をして、何を学んだのか想起することで、児童の自己評価を促す。
全 1	7 終わりの挨拶をする。	・正しい姿勢で挨拶をするよう言葉かけをし、学習の終わりを意識できるようにする。

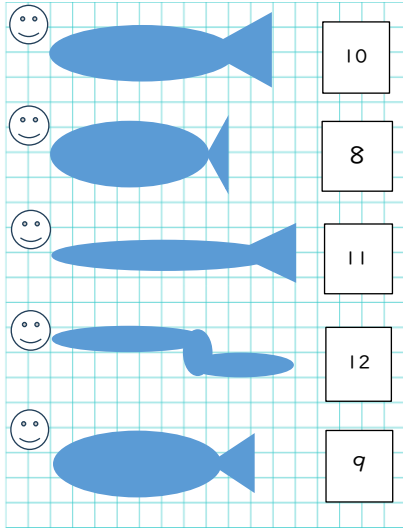
【板書計画】

算数 ながさくらべをしよう

目標 ますめのなんこぶでながさをくらべよう。

学習内容

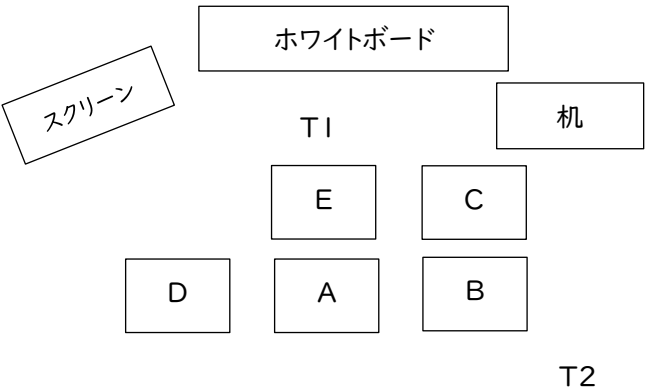
- 1 あいさつ
- 2 ぜんかいのかくにん
- 3 魚つり
- 4 個別学習
- 5 ふりかえり
- 6 あいさつ



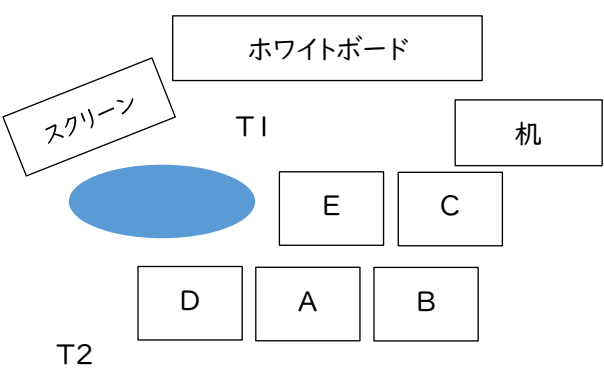
まとめ

ながさは、
ますめのかずで
あらわすことができる。

【座席配置図①】展開1～4、5～7



【座席配置図③】展開4(1) 魚釣り



【座席配置図②】展開4(2)～(7)

